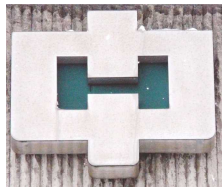


教育目標 「豊かな心で たくましく 自分の人生を切り拓く 生徒」

重点目標 「豊かな心 確かな学力 健やかな身体」



あ さ ひ こ
朝 日 子

佐渡市立畑野中学校 学校だより

平成29年 9月5日(火) 第9号

著・編 校長 加藤雄一郎 (TEL 66-2058)

創立当初を振り返る、70周年に添えて

今年度、畑野中学校は創立70周年を迎え、体育祭や文化祭には「創立70周年記念」の冠を付けて実施します。そこで、一気に70年を振り返ることはできないので、第1弾として創立当初から25年間を振り返っています。

1 創立当時を振り返る

創立は昭和22年（1947年）5月、いわゆる学制（学校の制度）が変わって、国民学校から新制中学校になりました。この70年前は日本はどんな状況で、どんな畑野中だったでしょう？想像してみてください。1つヒントを出します。日本が太平洋戦争に負けた終戦が昭和20年（1945年）でしたから、戦後2年目ということになります。

「当時は新制中学校に切り替わったとはいえ、同じ校舎で新しい学校になった感じはなかった。」とのこと（第1・2回卒業生）。校章や校歌ができ、新しい教科の英語がこの時から始まり、クラブ活動もできました。そして、小学校と渡り廊下で結ぶ校舎が4年後完成しています。体育館ができるまでにはもう3年かかっています。その頃の様子「創立50周年記念誌」に、次のようにあります。

「やはり戦後で、混乱した時代であり、物は足りない、お金もない。お金を借りることもできず、学区内の各家庭から相当の寄付をお願いして、学校を建てたのでありました。父兄の皆さんが学校のためなら、子供たちのためならと歯を食いしばってお金を出してくださったのでありました。畑野の中学校だけでなく、日本中の中学校がそうした父兄や地域の方々の汗の結晶で建てられたのです。教育というものは、食べることを我慢しても、着ることを忍んでも優先させなければならないほど大切なことであるという理解があったからであります。」戦後の日本を復興させるために、教育の大切さを国民が理解し、若者に託した時代でした。

2 卒業生の思い出の作文から

また、卒業生の作文（「50周年記念誌」）からいくつか紹介します。

- ① 「食料不足の深刻な時で、学校で実習畑、実習田があり多くの作業の時間があった。畑の肥料はしもごえ（いわゆる肥し）で学校の便所から運んだ。この「田舎の香水」には慣れていたが、桶が揺れるためにこぼれてともすると足や服について教室の中まで匂いを持ち込んだ。でも作業の合間に腰を下ろして、青空の下で先生といろいろな雑談を交わし、悩み事等も聞いてもらえる楽しい時間でもあった。」（第2回卒業生）その頃も、生徒と先生方の関係が良かったことが分かります。
- ② 昭和32年には次のように載っています。『学校で勉強、家に帰れば百姓の手伝い』が子どもたちの生活だった。」（第10回卒業生）農家が多かったのも、当然子供たちは家の手伝いをして、家族みんなで協力していたことが分かります。皆さんは「学校では勉強、家では何を手伝っていますか？」
- ③ 「1クラス50余名のマンモス世帯、（創立当初、全校生徒は409名、一番多かった時は578名（昭和36年））一度着席すると、起立するのに一苦労でした。忘れ物、規則等々守れない生徒は、先生方の個性あるユニークな罰が待っていました。お陰様でみんな逞しく忍耐ある人間が形成されたものと思います。
3年生の体育祭は、紺の着物に袴、木刀を脇差しに『白虎隊』を披露、次々と走馬燈のように思い出されます。（中略）今後もよく学び明るく楽しい学校生活が過ごせる畑野中でありたいことを願っています。」（第10回卒業生）
- ④ 「戦後10年足らずの頃で、全国的にもまだまだ物資の乏しい時代だったので、建物に見合うような体育用具はなく、体育の時間にはもっぱら球1つで用の足るドッジボールやバレーボールを選ぶことが多かったような気がする。その代わりとは言っては何だが、現在の中学校生活に付き物のような陰湿なイジメや登校拒否とはまったく無縁の環境のもとで、文字通り『良き師、良き友』に恵まれ、実り多い3年間を過ごすことができた。」（第9回卒業生）
- ⑤ 「優しく小学校を見守るように建っていた校舎がまぶたに浮かぶ。（中略）豊かな自然と子供たちを慈しむ地域の人々の愛に育まれた幸福な少女時代の記憶は、心の中でさんぜん燦然と輝いている。私の終生の宝

物である。」(第23回卒業生)

3 今の畑野中をどうするか

さて、創立された頃の畑野中の様子を想像することができましたか。その頃の生徒の学校でのことや後輩への思いを感じましたか。今も創立当時に負けない「生徒と先生方の良好な関係、友達同士の友情」「良き師、良き友の関係」が築かれているように思います。皆さんはどのように感じますか。そして、70周年を迎えた今の畑野中をどのようにしていきたいですか？

この70年間に畑野中を巣立った卒業生は6,618名を数え、70年の重みを感じます。もしお爺ちゃんやお婆ちゃん、お父さん、お母さんが畑野中の卒業生だったら、当時の様子を聞いてみるのもよいでしょう。そこには今の皆さんと大きく環境が違ってはいても、今と同じ多感で楽しい中学生を送っていた、お爺ちゃんやお婆ちゃん、お父さん、お母さんがいたことに気付くかも知れません。

さあ、今の畑野中の主役は皆さんです。あなたは70周年を迎えた今の畑野中をどのようにしていきますか？
(9月4日 全校朝会 校長講話より)

体育祭近し、記念写真を撮ります

「創立70周年記念体育祭」が9月9日(土)に行われます。生徒たちは紅青両軍に分かれ、競技や応援、パネル製作に応援リーダーを中心に準備をしています。7月の結団式から1年生から3年生までがよい雰囲気です。夏休み中も、3年生は着々と準備をしてきました。特に、パネルの製作は早かったです。二学期に入り、応援歌や振り付け等、みんなで協力して、声を出したり身体を動かしたりして覚えています。体育祭の運営についても、実行委員や専門委員会をリーダーに「全校生徒で創る体育祭」を実現しようと頑張っています。当日にご期待ください。

また、「記念イベント」として、当日プログラム最後の「佐渡おけさ」(14:50頃)の後、ドローンを使って上空から写真を撮ります。生徒、保護者、地域の皆様にも「佐渡おけさ」に入っただき、「70th」の人文字を作り、記念写真を撮影します。「佐渡おけさ」から多くの皆様に参加していただき、写真にも加わっていただきたいと計画しています。ご近所の皆さんも誘っていただければ幸いです。

ところで、懸念しているのが北朝鮮の弾道ミサイル発射です。9日は北朝鮮の建国記念日に当たり、この前後にまたミサイルを発射するかもしれないという報道もあります。そこで、学校ではJアラート(全国瞬時警報システム)が発動した場合の対応を、次のように考えています。生徒と保護者・地域の皆さんの安全を第一に考え、対応していきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

Jアラートが発動した場合の避難対応

1 登校前(～6:30)にJアラートが発動した場合

学校で事態を判断し、延期か実施かの判断をする。その後、学級連絡網を活用して連絡する。

2 登校してからJアラートが発動した場合

- (1) <グラウンドで避難する場合> ※弾道ミサイルは発射から8分以内に着弾する可能性があるため、校舎への避難が困難と判断した場合(Jアラート作動後4分くらいしかない)
 - 一旦活動を止め、できるだけまとまって頭を守るように地面に伏せる。(一次避難)
 - 最新の情報から、安全が確認できたら活動を再開する。安全が確保できない時は、素早く屋内(体育館かランチルーム)へ避難する。(二次避難)
- (2) <屋内(体育館またはランチルーム)へ避難する場合> ※屋内避難まで余裕がある場合
 - 一旦活動を止め、すばやく屋内へ避難する。誘導は学校職員がする。
 - 最新の情報から、安全が確認できたら活動を再開する。安全が確保できない場合は中止し、次の行動を判断する。
- (3) 新潟県周辺や首都圏等に着弾があった場合は、体育祭は中止し、保護者と帰宅措置とする。(あくまで、安全が確保されるまでは、屋内に避難して待つ)

最後に、Jアラートが今後も発動しないことを願っておりますが、万が一発動された場合は、最新の情報を確認した上で、ご家庭の皆さんと連絡を取りながら、生徒の安全確保に努めて参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

弾道ミサイル落下時の行動について

弾道ミサイルは、発射から極めて短い時間で着弾します。ミサイルが日本に落下する可能性がある場合は、Jアラートを活用して、防災行政無線や防災無線サイレンとともにメッセージを受信すべし、防災無線メール等により最新情報を知らせます。

①速やかな避難行動
②正確かつ迅速な情報収集

防災無線のサイレンが流れて、落ちる音が聞こえてきたら、

国民保護ポータルサイト
防災情報や最新の状況を確認するために活用してください。

国民保護ポータルサイト
防災情報や最新の状況を確認するために活用してください。

Twitterアカウント
防災情報や最新の状況を確認するために活用してください。

防災無線メール
防災情報や最新の状況を確認するために活用してください。

落下音が聞こえたら、速やかに避難してください。

落下音が聞こえたら、速やかに避難してください。

落下音が聞こえたら、速やかに避難してください。

落下音が聞こえたら、速やかに避難してください。

